

2020年、ありがとうございました

本年も、残すところあと僅かとなりました。ご契約者の皆さま、いつもお世話になっている皆さま、2020年もありがとうございました。今年も、世の中も、人の心も、非常に大きく変化した年になったのではないかと思います。僕個人では、道祖神の初灯籠や第三子の誕生と、大きな出来事が重なった年ともなりました。

いつも思うことではありますが、いつ、どんなことが起ころうとも、全ては「それを自分がどう捉えるか」ここに行き着きます。どんなことでも、宇宙的に見れば、一つの「現象」に過ぎません。嬉しい、と思えばそれは嬉しいことですし、悲しい、と思えば、それは悲しいことです。どちらも人間らしく、素晴らしいことだなあ、と思います。これからももっと色々なことが起こる人生ですが、人間らしく、長い目では全てのことを前向きに捉え、思い切り人生を楽しみたいと思います。

どうか皆さまにとって、2021年がしあわせな年になりますように。

河野 謙

KEN TIMES

2020年 12月号



今月のインタビューは、
果樹栽培「山本園」の
山本亮介さん
愛さんだぜい。



◆十三夜にベートーベン先生からの電話。



僕の人生の幸運な出来事の一つとして、ベートーベン先生が小学校の担任の先生だった、ということがあります。「ベートーベン先生」は、当時フサフサにあった髪の毛(今は面影もない、と本人が言っていた。本人が。)があのお音楽家に似ていたことから、そう呼ばれており…本名は柴本芳一先生といいます。このレターをお読みのあなたはご存知かもしれませんね。その柴本先生から、十三夜(10月29日)に電話がありました。正確にはその前日ですが、電話の中で柴本先生は、「いや～、今、月を見ていてね。あの頃に謙君が『先生、今すぐ月が綺麗だよ』って電話してきてくれたときのことを思い出して電話したんだよ。…こうして月を見てるとさあ、どうして昔の人は真ん丸の月じゃなくて、ちょっと欠けてる、この十三夜の月を美しいと思ったのかなあ、とか相変わらずそんなことばかり考え



【修学旅行の2日目の朝に撮った一枚。しっかりベートーベン先生ですね。】

るんだよ。根っからのアナログ人間なんだよなあ。」と、そんな会話をしました。この短いエピソードからも、先生がどんな人なのかわかっていただけるかと思います。とても人間味のある、なんて言うんだろうなあ…とにかく…そういう人なのです。(ただ、怒った時はめっちゃめちゃ怖かったです)

今、同じ月を見ながら、4歳の息子が「ト～、きょうのおつきさまさ、ヨウの顔みたいにまんまるだね。」と、言うのを聞いて…あれからちゃんと月日が流れたんだな、と、じんわり認識するのでした。

その電話の中で先生は、「その時の評価なんてそんなに大したことないんだよな。あとで必ずそういうのはついてくるから。」ということをやっていた。先生はいつでも、『人として』何が大切なのかを教えてくれている気がします。電話をいただいたきっかけは、このレター(契約者の方だけでなく、お世話になっている方にも勝手に送っています)でした。普段なかなか会えない方とも、今もこうして繋がっていただけることは、いつも僕の心をあたため、そして豊かにしてくれます。

◆よう・だん・もん！



「文(もん)って男の子？ 女の子？」 …男です！

10月21日、3人目となる「文」が誕生しました。稲刈りが終わって(妻は今回もギリギリまでコンバインに乗っていた！)休む間もなく出てきました。長男が葉(よう)、その次が女の子で暖(だん)、さて次は…と、ネタがだんだん尽きてきましたが、今回も世界共通



で呼びやすい名前は…？と考えていたある日の夕飯中、「モンってどうよ！？」ということで、案外あっさり決めました。しかし、決めてから、「オイオイ、そう言えば、さかやのワンちゃんもモンちゃんじゃなかったか？」ということで、「一応、了承を得ておこう。」と、急遽さかやの晃さんに電話しました。すると晃さんは「え～どうしよっかな～」と少し勿体ぶってから、「OK。いいよ！ちゃんと黒く塗っておけよ！」と、なんとも晃さんらしいご回答。何はともあれ、晃さん、雪さん快よくご承諾いただき、ありがとうございました！どうかうちのモン君も可愛がってくださいませ。

◆もっと行きたい！



とにかく今年はゴルフとサーフィンが楽しかったですね～！会社へ行く回数が減った分、遊びに回せる時間が大幅に増えました。そして仕事の売り上げは飛躍的に伸びました。こんなにありがたいことはございません。写真のこの日はなんと、元プロ野球選手が二人も！まず、構えが違いますね。左側のおじさま方は同業で、日本でトップクラスの方々です。皆さん、野沢を気に入っていただき、最近はしょっちゅうお越しいただけます。今年からちゃんと行きはじめたゴルフ…。100切りを目標にしましたが、叶わず、最高が110。はじめに行った頃とほぼ変わりませんでした。毎度、違った症状が出てきます。それでも毎回凄く楽しくて、あ～雪が降っちゃうのか～、とさ思っています。それでも冬が始まってしまえば、やはりスキーは最高としか言えませんが、結局、年中楽しいのです。

◆嫁(70年前)から嫁(40前)へ。



名人(村ではそう呼んでくれる人がいる)の祖母も御歳94歳。フジヨシでは名人芸の伝承が始まっております。『野沢の歴史ここに有り』後ろから見ていて、そんな気がしました。男の僕はあまり立ち入るべきではないと感じ、スッとそこを離れました。夏季シーズンのお客さんにも、よく野沢菜が食べたい、お土産に買いたいと言ってもらえるのですが、念のため。野沢菜は11月中頃に漬けて、1月から3月上旬？ぐらいが食べごろです。それを過ぎてからは、刻んで『油炒め』にすると堪らなく美味しいです。葉を刻んで納豆と混ぜた『野沢菜納豆』も、誰もが唸る絶品です。他に何も要りません。



◆いつの時代も男はチャンバラ。

棒だけあればいいのです。いつだって何処だってそれが最高の遊びですから。男の子を山の中に連れて行けば、100%、棒を振り回して遊びます。・・・あなたもそうだったでしょう？生まれる前に男の脳には神様がそう書き込んでおくのでしょうか。今の子どもは、「二刀流・宮本武蔵！」ではなく、それぞれが「鬼滅の刃」のキャラクターに成り切ります。その成り切り具合には目を見張るものがあり、彼らの想像力がグングンと膨らんでいくのが目に見えるような気がします。すぐに喧嘩して、すぐに泣き、またすぐに仲直りして。「帰るよ！」と言っても、全力でいつまでも遊んでいます。誠に遅くてイイぞ、君たち！



◆書。



頭のとっぺんからつま先まで良いことで満たされている・・・そんな意味だそうです。

「三洞さん」に、子どもの名前の書をいただきました。子どもの名前の黒い墨が、そこにしっかりと染み込んでいるのを見て、不覚にも涙が溢れそうになりました。妻も、「え、三洞さんって、字上手いんだね～！」と感激(そりゃ、筆で食ってる人だからな！笑)。何度か登場いただきましたが、三洞さんは書家で、僕の仕事の師匠でもあります。2年前にお会いし、昨年よりお越しただいて以来、すっかり野沢を気に入っていたようで、かなりのペースでお見えになります。この風貌(夏は作務衣に草履の仙人スタイル)ですので、村でもちょっとした有名人になりつつあります。・・・三洞さん、素敵な贈り物をありがとうございます。

文も生まれ、より一層賑やかな我が家ですが、とにかく子どもには、頭のとっぺんからつま先まで、それぞれのスタイルで元気いっぱいになって欲しいと思います。

河野家、ファイヤ～！！！！